

千葉市感染症発生動向調査情報

2019年 第31週 (7/29-8/4) の発生は？

1 定点報告対象疾患(五類感染症)

報告のあった定点数		31週	30週	29週	28週
上段: 患者数 下段: 定点当たりの患者数	小児科	18	18	17	18
	眼科	5	5	5	5
	インフルエンザ*	28	28	27	28
	基幹定点	1	1	1	1

「定点当たりの患者数」とは
報告患者数/報告定点数。

定点	感 染 症 名	千 葉 市					千葉県
		注意報	7/29-8/4	7/22-7/28	7/15-7/21	7/8-7/14	7/22-7/28
			31週	30週	29週	28週	30週
小児科	RSウイルス感染症	○	33 1.83	28 1.56	5 0.29	7 0.39	138 1.02
	咽頭結膜熱	○	11 0.61	7 0.39	5 0.29	6 0.33	42 0.31
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		15 0.83	22 1.22	10 0.59	31 1.72	233 1.73
	感染性胃腸炎		70 3.89	96 5.33	43 2.53	94 5.22	427 3.16
	水痘	○	14 0.78	2 0.11	1 0.06	3 0.17	55 0.41
	手足口病	★★★↓	245 13.61	353 19.61	269 15.82	382 21.22	2221 16.45
	伝染性紅斑	○	17 0.94	15 0.83	12 0.71	20 1.11	119 0.88
	突発性発しん		9 0.50	8 0.44	9 0.53	9 0.50	56 0.41
	ヘルパンギーナ		34 1.89	37 2.06	34 2.00	57 3.17	325 2.41
	流行性耳下腺炎		1 0.06	2 0.11	0 0.00	3 0.17	19 0.14
インフル	インフルエンザ*(高病原性鳥インフルエンザを除く)		0 0.00	0 0.00	1 0.04	1 0.04	10 0.05
眼科	急性出血性結膜炎		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00
	流行性角結膜炎		5 1.00	1 0.20	4 0.80	3 0.60	9 0.26
基幹定点	細菌性髄膜炎 (髄膜炎菌性髄膜炎を除く)		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	1 0.11
	無菌性髄膜炎		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00
	マイコプラズマ肺炎		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	1 0.11
	クラミジア肺炎 (オウム病を除く)		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00
	感染性胃腸炎 (ロタウイルスに限る)		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00

★★: 流行中 ★: やや流行中 ◎: 増加 ○: やや増加 →: 変化なし ↓: やや減少 ↓↓: 減少

2 全数報告対象疾患(14件)

病名	性	年齢層	診断(検査)方法	病名	性	年齢層	診断(検査)方法
結核	男性	40歳代	IGRA検査	百日咳	男性	10歳未満	病原体遺伝子の検出
結核	男性	80歳代	胸水ADA値の上昇	百日咳	男性	10歳未満	病原体遺伝子の検出
腸管出血性 大腸菌感染症	女性	60歳代	病原体の検出及び ベロ毒素の確認	百日咳	女性	10歳未満	病原体遺伝子の検出
				百日咳	女性	10歳未満	病原体遺伝子の検出
レジオネラ症	男性	60歳代	病原体抗原の検出	百日咳	女性	10歳代	病原体遺伝子の検出
アメーバ赤痢	男性	30歳代	病原体の検出	百日咳	女性	40歳代	病原体遺伝子の検出
後天性免疫不全症候群	女性	40歳代	血清抗体の検出等	風しん	男性	20歳代	病原体遺伝子の検出
梅毒	男性	20歳代	血清抗体の検出	-	-	-	-

*第31週は、結核2件(115)、腸管出血性大腸菌感染症1件(9)、レジオネラ症1件(9)、アメーバ赤痢1件(6)、後天性免疫不全症候群1件(5)、梅毒1件(22)、百日咳6件(93)、風しん1件(40)の報告があった。

※ ()内は2019年の累積件数。但し、累積件数は速報値であり、データが随時訂正されるため変化します。

定点当たり報告数 第31週のコメント

＜RSウイルス感染症＞前週より更に増加し1.83となった。過去10年の同時期と比べると最多のまま。

＜咽頭結膜熱＞前週より増加し0.61となった。過去10年の同時期と比べると多い。

＜水痘＞前週より増加し0.78となった。過去10年の同時期と比べると多い。

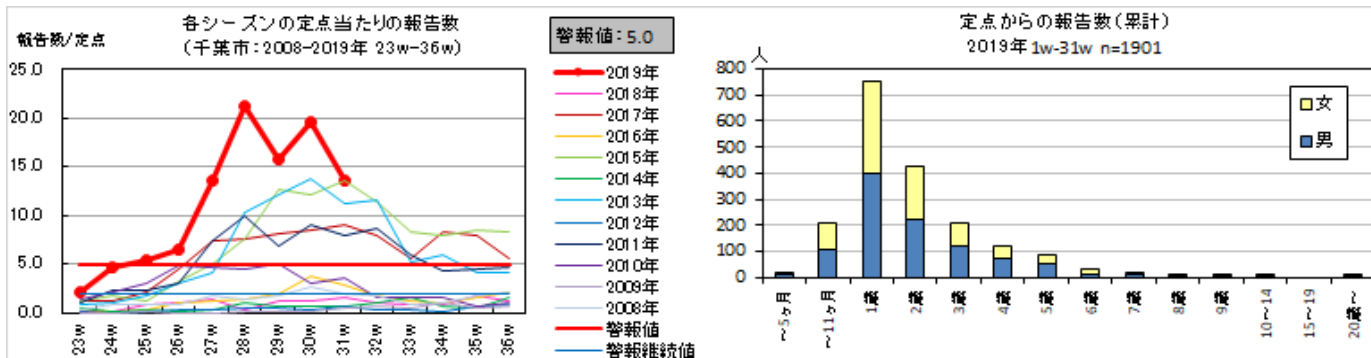
＜手足口病＞前週より減少し13.61となったが、過去10年の同時期と比べると多く、依然として流行発生警報開始基準値を上回っている。

＜伝染性紅斑＞前週より増加し0.94となった。過去10年の同時期と比べると多い。

トピック

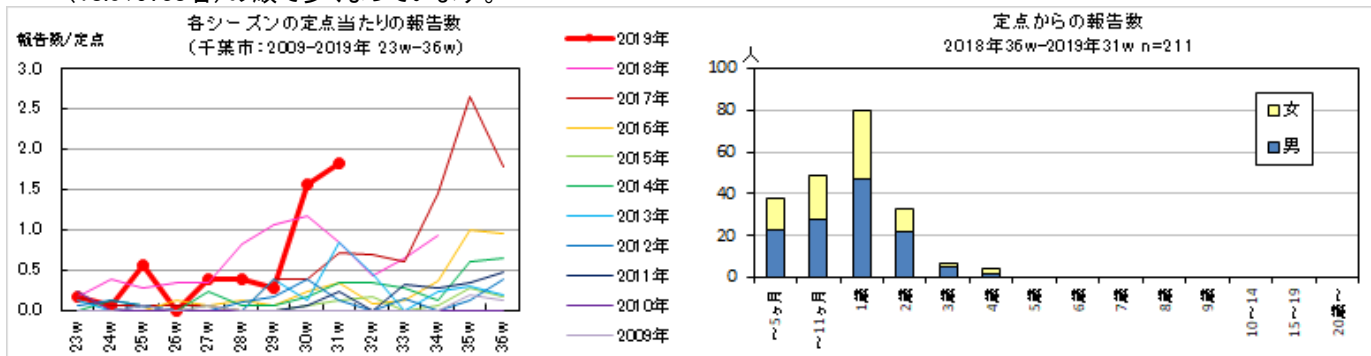
＜手足口病＞

全国レベルの第30週の定点当たりの報告数は13.42で流行発生警報開始基準値(5.0/定点)を上回ったままで、過去10年の同時期と比べると最多のままでなっています。都道府県別では宮城県、山形県、群馬県の順で多く報告されています。千葉県の定点当たりの報告数は16.45で、全国レベルより多めとなっています。千葉市の第31週は前週より減少し13.61となりましたが、過去10年の同時期と比べると最多のままで、流行発生警報開始基準値も上回ったままでなっています。区別の発生状況は、美浜区以外のすべての区で流行発生警報開始基準値を上回っており、稲毛区(21.0/定点)で最多、同区の1歳で最も多く発生報告がありました。美浜区では流行発生警報収束基準値(2.0/定点)を上回っています。2019年第1週から第31週までの累積報告数は1901件で、性別では男性が54.9%(1025名)、女性が46.1%(876名)となっており、年齢階級別では1歳(39.8%:756名)、2歳(22.5%:427名)、6-11か月(10.9%:208名)の順で多くなっています。



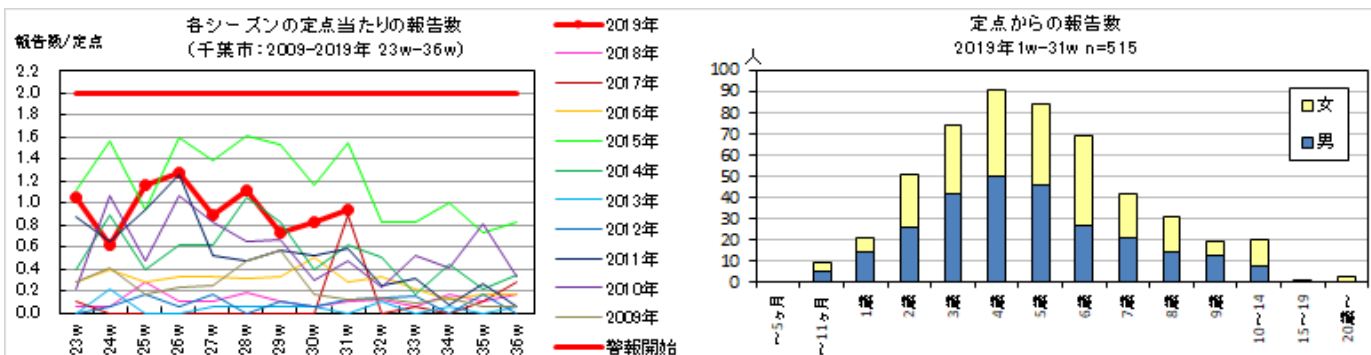
＜RSウイルス感染症＞

全国レベルの第30週の定点当たりの報告数は1.01となり、過去10年の同時期と比べると多くなっています。都道府県別では沖縄県、宮崎県、福島県の順で多く報告されています。千葉県の定点当たりの報告数は1.02で、全国レベルとほぼ同レベルとなっています。千葉市の第31週は前週より更に増加し1.83となり、過去10年の同時期と比べると最多のままでなっています。区別の発生状況は、緑区(3.5/定点)で最多で、同区の6-11か月及び1歳で最も多く発生報告がありました。今シーズンである2018年第36週から2019年第31週までの累積報告数は192件で、性別では男性が60.2%(127名)、女性が39.8%(84名)となっており、年齢階級別では1歳(37.9%:80名)、6-11か月(23.2%:49名)、0-5か月(18.0%:38名)の順で多くなっています。



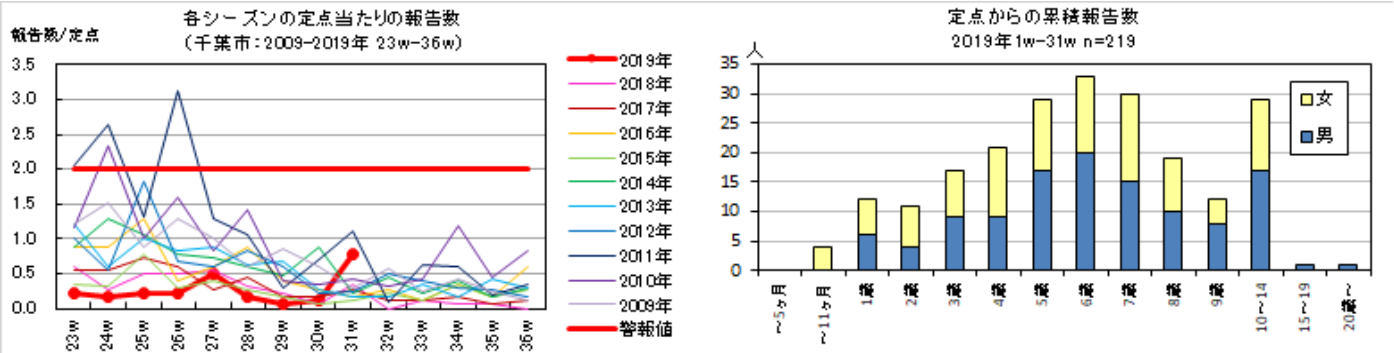
＜伝染性紅斑＞

全国レベルの第30週の定点当たりの報告数は0.88となり、過去10年の同時期と比べると多くなっています。都道府県別では長野県、滋賀県、富山県の順で多く報告されています。千葉県の定点当たりの報告数は0.88で、全国レベルとほぼ同レベルとなっています。千葉市の第31週は前週より増加し0.94となり、過去10年の同時期と比べると多くなっています。区別の発生状況は、稲毛区(2.67/定点)で流行発生警報開始基準値(2.0/定点)を上回り最多で、同区の6歳で最も多く発生報告がありました。また、若葉区でも流行発生警報開始基準値を上回っています。2019年第1週から第31週までの累積報告数は515件で、性別では男性が51.7%(266名)、女性が48.3%(249名)となっており、年齢階級別では4歳(17.7%:91名)、5歳(16.3%:84名)、3歳(14.4%:74名)の順で多くなっています。



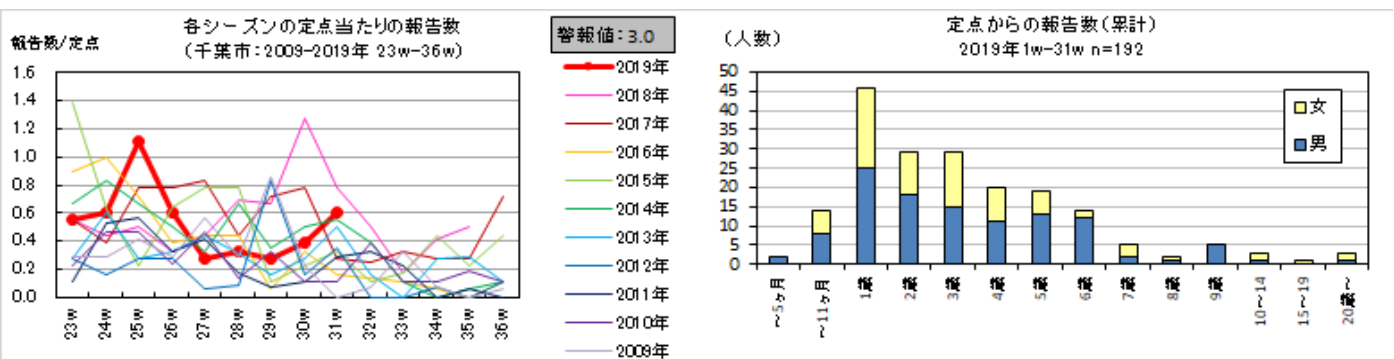
<水痘>

全国レベルの第30週の定点当たりの報告数は0.33で、過去10年の同時期と比べると少なくなっています。都道府県別では山梨県、福岡県、埼玉県の順で多く報告されています。千葉県の定点当たりの報告数は0.41で、全国レベルよりも多めとなっています。千葉市の第31週は前週より増加し0.78となり、過去10年の同時期と比べると多くなっています。区別の発生状況は、若葉区(6.0/定点)で流行発生警報開始基準値(2.0/定点)を上回り最多で、同区の3歳で最も多く発生報告がありました。2019年第1週から第31週までの累積報告数は219件で、性別では男性が53.4%(117名)、女性が46.6%(102名)となっており、年齢階級別では6歳(15.1%:33名)、7歳(13.7%:30名)、5歳及び10歳代前半(共に13.2%:29名)の順で多くなっています。



<咽頭結膜熱>

全国レベルの第30週の定点当たりの報告数は0.49で、過去10年の同時期と比べるとやや少なめとなっています。都道府県別では沖縄県、宮崎県、鹿児島県の順で多く報告されています。千葉県の定点当たりの報告数は0.31で、全国レベルよりも少なめとなっています。千葉市の第31週は前週より増加し0.61となり、過去10年の同時期と比べると多くなりました。区別の発生状況は、緑区(2.25/定点)で最多で、同区の6歳で最も多く発生報告がありました。2019年第1週から第31週までの累積報告数は192件で、性別では男性が59.4%(114名)、女性が40.6%(78名)となっており、年齢階級別では1歳(24.0%:46名)、2歳及び3歳(共に15.1%:29名)の順で多くなっています。



<風しん>

全国レベルの第30週の発生届累積数は2039件で、昨年の同時期と比べるとおよそ30倍近くなっています。都道府県別では、東京都、神奈川県、千葉県の順で多く報告されており、関東地方で多くなっています。千葉市では第31週に1件の発生届があり、2019年の累積数は40件となりました。性別では男性が77.5%(31名)、女性が22.5%(9名)となっており、年齢階級別では30歳代及び40歳代(共に32.5%:13名)、20歳代(12.5%:5名)の順で多く、30歳代～40歳代の男性が中心となっています。ワクチン接種歴は、無し又は不明が全体の8割を占めています。

